



リード芦屋新聞

発行元
リードあしや
協力
クラーク記念
国際高等学校
防災部

課題ふり返り来年へ

「災害時対応セミナー」の最終回が12月7日、芦屋市公光町の芦屋市立あしや市民活動センター「リードあしや」で行われた。「災害食」や「避難所ぐらし」など、衣食住に観点を置いたセミナーは8月から5回に分けて開催され、その総まとめである今回は過去4回の講師や参加者が一堂に会した。セミナーを録画した映像を視しながら、講師や参加者が今までのセミナーを振り返った。

防災セミナー閉講



「津波防災すごろく」を使った図上訓練では、実際に

防災の繋がりが広がった

監修の津久井弁護士に聞く

今回の災害時対応セミナーの監修をしたスーパードクターの津久井弁護士にインタビューした。

過去4回にわたって開催されたセミナーでは、災害時の衣、食、住の対応を主に学んだ。段ボールベッド作りや、災害時の食事の実演、ローリングストックの重要性などを学習。津久井さんは「多くの人と考えることにより、一人では見つけることの出来なかった考えが見つかり、防災に対する繋がりが広がった」と総括した。

また、出ていない事が

津波が襲ってきた時のコミュニケーションを行い、それぞれの行動を発表しあって改善点やリスクなどを話し合った。

来年の活動について意見を出し合う場では、「関連資料をまとめる」「専門家に話を聞く」「地震保険加入を促進」などの多くのアイデアが出された。中には「体験型のイベントを開催すべき」という意見の様な、「実際に体験した方が強く記憶に残る」という参加者の実体験から生まれたものもあり、2020年のリードあしやの防災の取り組みが大いに期待出来る話し合いとなった。

最後にはお湯だけで作ることができ、洗い物の出ない「ポリ袋クッキング」を使ったチリコンカーンが全員に振る舞われた。この料理はカセットコンロを使って簡単に作れる上、美味しく栄養を取ることができ、大勢と楽しみながら防災を学ぶことのできるセミナーとなった。（尾鷲夏帆）



「僕は弁護士の仕事をして

衣食住 5回で学ぶ

「日常を災害時につなぐ」主題に



よく分かった」と話した。私もこのセミナーで人との繋がりの大切さが改めて分かった。人との繋がりを

強化することで違う考え方が増え、新しい発想でより良い防災を行う事ができると思う。（福高結菜）

リードあしや主催の「災害時対応セミナー」は5回の講座で、日常の取り組みを災害時につなげることを重視する内容だった。

第1回は8月24日、災害時におけるITを使った情報収集と発信をテーマに開かれた。NPO法人コミユニティリンクの松村亮平代表がSNSの活用について、ためま株式会社和田菜水子さんがアプリ「ためまつぶ」について話した。

10月19日の第2回は「災害時の食」がテーマ。コープこうべの藤井智生さんが、日常的に食べて買える備蓄法「ローリングストック」について解説し、

ゆせんでごはんを炊いたり、おかずをつくらしたりするポリ袋調理を実演した。

第3回は10月27日、芦屋大学ボランティア部Aquaが主催し、同大学であった「イザ！カエルキアラバンin芦屋学園祭」を見学した。11月2日の第4回は「災害時の住」と題して開かれ、芦屋市防災安全課の藤岡厚貴さんが、市内42カ所にある防災倉庫の備蓄状況などについて説明。学生たちでつくる「17KOBEBEぼうさい委員会」が、避難所暮らしが快適になるようなノウハウをワークショップで披露した。